



2020年度 付中通信第15号

バトンをつないで

2020.12.28 (月)

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

2020年、令和2年が終わろうとしています。コロナで始まりコロナで終わった一年でした。世界中の人たちがコロナ禍という一つのテーマを共有し、右往左往している、こんな状況を去年の今頃、いったい誰が想像できたでしょうか。

戦後世代の私たちには、突然生活自体を見直さざるを得なくなったり、不自由を強いられたりという経験は、ほとんどありません。自然災害の少ない地域に暮らしていたら、なおさらありません。長く生きてきた私があえてそんな経験を挙げるとしても、1973年の石油ショックくらいです。ある日あっという間に物価が2倍近くに跳ね上がり、市場から商品が瞬く間になくなったという経験でした。もう50年近く前、まだ私は



岩国市長を表敬訪問(模擬国での入賞を報告する丸小野・森脇ペア)

高校生でしたが、初めて世の中って変わるときは一気に変わるんだと不安に慄いたものです。

でもあの時は石油を他国に依存してきた限られた国々の危機でした。が、今回の危機は世界中の人々に共通する危機(パンデミック)だという点で、まったく次元の異なるものです。

学校も生徒は自宅待機となって、学習支援をどうするか、で大きな課題を突き付けられました。社会ではリモートで仕事をするテレワーク、が進みましたが、こと学校教育の世界は惨憺(さんたん)たるものでした。生徒宅にあってはネット環境やICTの設備が整っていない、学校の方はオンラインによる支援の具体的な方法がわからない、さらに先生方のスキル不足もあって、何とかしなければという焦りばかりが先行して、大変な混乱ぶりでした。

その後、海外に比べて日本のICT環境が著しく劣っていることが、社会全体ではっきりと認識されるに至り、文科省は次々と大きな臨時予算を組み、整備計画を数年も前倒しし、一気にICTの環境整備に乗り出しました。

そのおかげで本校も来年度から、これまでずっと懸案だった、校内LAN構築やwifi環境が整い、生徒が一人一台のPCやタブレットを所有して、それを活用した授業ができるようになります。

その一方で、特別に残念なことがあります。

それは、3密を前提に進めてきた、というか3密を頼りに本校の特徴としてきた、アクテ

ィブラーニングや校外学習が滞ってしまったということです。いくらICT環境が整っても、3密を禁じられている以上、思うような教育活動ができない、という大変悔しい難しい現実があります。

しかし、そういった悪条件をいかにして跳ねのけ、生徒らに有意義な学びを提供

できるかが、教師である私たちの使命となり、壁となります。この壁を打ち破るには生徒諸君の協力もなくてはなりません。「たかちゅう」モデルとでもいうべきコロナ禍に対応した、理想の学校スタイルをみんなで編み出していきたいものです。

さて、小川華さんが中3で英検準1級の壁を打ち破ってくれました。彼女が合格するまで、中学生が準一級なんてとても不可能だと私は思っていました。古川匠くんが、応募したすべての作文コンクールで入賞しました。一度にこんなに多くの受賞は未だ聞いたことがありません。彼はどんな方法を使って作文がうまくなったのでしょうか。

今までできないと思ってきたことができた時、私たちの認識、世界の見え方が変わります。

全日本高校模擬国連大会で、S2の丸小野・森脇君ペアがついにニューヨークで開催される国際大会への切符を手に入れました。

ここまで来るのに、14年かかりました。14年前、第一回大会に出ることを決めたのは生徒です。冷やかしかし半分に応募したら予選を通過してしまい、出たのはいいけど、きっと彼らは議場で途方に暮れ、何もできずに終わってしまっただろうと今になって思います。

その2人に、もう30歳になっていますが、私はすぐにメールでこのことを知らせてやりました。君らがいだから、高水は栄光を勝ち取ることができた。

実は初めて出場した時から、私は、日本の超有名進学校と競わねばならないこの大会で入賞は無理だとずっと考えていました。ところが今年、このぶ厚い壁を打ち破ることができたわけですから、私にとってこの事実は奇跡以外の何ものでもありません。

ざっと40名を越える先輩たちが14年間にわたり、後輩にバトンをつないで、磨いた技を伝えながら出場し続けました。私から見ればそうやって続けてきたことによる奇跡、幸運であったと思います。それは言い方を変えるなら、

「高水が成し遂げた14年間の継続」の成果とすることができます。

生徒は一人一人やるべきことがあります。それぞれに壁があります。体当たりで攻め続けてほしい。必ず壁は打ち破れます。以上2020年を締めくくる言葉です。



昨年全日本高校模擬国連大会で奮闘中の六年制普通科2年森脇優さん



昨年大会で各大使に囲まれ、説明に忙しい同2年の丸小野成輝さん(まん中)